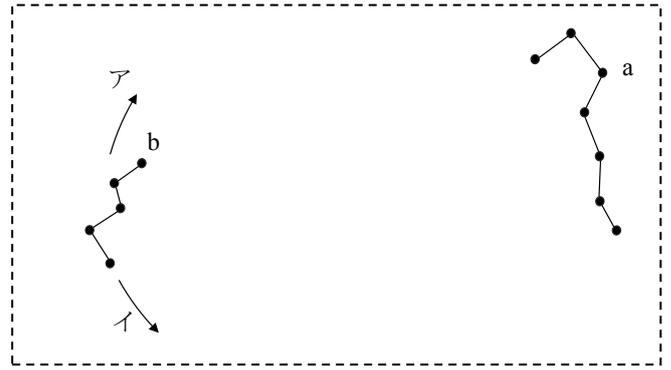


1 北の空の星座

(1) 右の図に、北極星 c をかき入れなさい。

(2) 次の文の①～④, ⑦には星や星座名を, ⑤にはアまたはイを, ⑥には数値を入れよ。

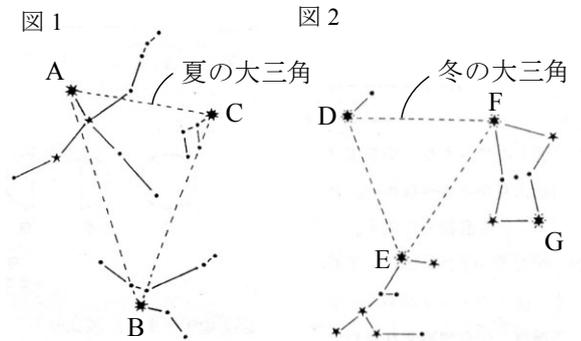
a は ①() で ②() 座の一部である。これに対し、北極星 c は ③() 座の一部である。また b は ④() 座で、この空を観察した 2 時間後には ⑤() の方向に ⑥()° 動いて見える。一方、この観測地点における緯度は、⑦() の高度と等しい。



2 季節の星座

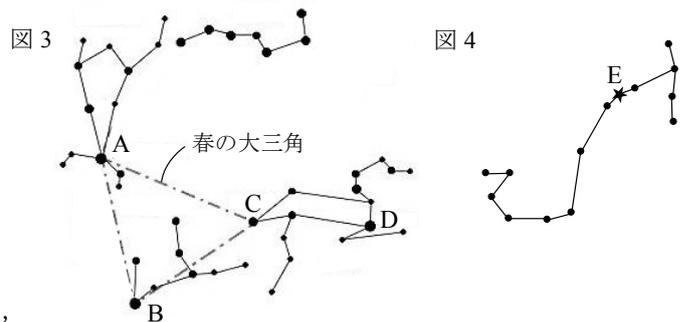
(1) 図1, 図2について次の①～⑥の()にあてはまる言葉をかけ。

- ① 星 A は() 座の() である。
- ② 星 B は() 座の() で、() ともいう。
- ③ 星 C は() 座の() で、() ともいう。
- ④ 星 D は() 座の() である。
- ⑤ 星 E は() 座の() である。
- ⑥ 星 F は() 座の() で() 色、星 G は() で() 色の 1 等星である。



(2) 図3, 図4について、次の①～④の()にあてはまる言葉をかけ。

- ① 星 A は() 座の() である。
- ② 星 B は() 座の() である。
- ③ 星 C は() 座の(), 星 D は() である。星 B と星 D は() 色の 1 等星である。
- ④ 星 E は() 座の() で、() 色の 1 等星である。



3 恒星の明るさと色

次の文の()にあてはまる言葉や数値をかきなさい。

自ら光を放つ星を()という。地上から見て一番明るく見える星を(), 肉眼で見える一番暗い星を()とし、すべての星を 6 等級に分ける。等級が 1 等級上がると明るさは約()倍、1 等星は 6 等星の約()倍の明るさになる。一方、()の色は()で決まり、温度が高くなるにつれ、()色 → ()色 → ()色 → ()色と変わる。全天で最も明るく見える星は、()座の()で、()色をしている。

